

2012. 12. 04 発行

すっかり季節は冬ですね。2年生は修学旅行お疲れ様でした。SSHです。

先日ある会合に、私、いきものがたりは参加しておりました。その会合の中で、山梨県の生物相の特徴についてお話を伺う機会を得ました。お話のテーマは

山梨が誇る独自で多様な生物相

講師は、山梨県環境科学研究所の北原正彦先生です。北原先生は私の大学の先輩でもあるので、懐かしさ一杯だったのですが・・・、それ以上に地元の自然にこんな深刻な変化が起きていることを知り、考えさせられるお話でした。(正しい事を知らない自分を恥ずかしく思いましたね)

舞台は、甘利山・・・。地元蕪崎の有名な生態系です。甘利山といえば、標高 1731m、山梨百名山の一つに選ばれていて、レンゲツツジが有名です。次の地図を見て下さいね。



北原先生は、チョウの専門家であります。チョウを指標に、これまでも富士山の独特のチョウの分布を調査で明らかにされ、数多くの提言をされてきました。それによると、山梨県には日本の高山に生息する「高山蝶」が8~9種類生息していて、お隣の長野県と並んで、高山蝶の大切な住み処となっているようです。主に南アルプスと八ヶ岳がその生息場所になっています。高山蝶というのは、卵→幼虫→蛹→成虫というライフサイクルのすべてを高山で行う蝶のこと。本州ではおよそ標高 1500m 以上に生息すると言われてています。

ところ不思議なことに、日本一の高さ (3776m) を誇るにも関

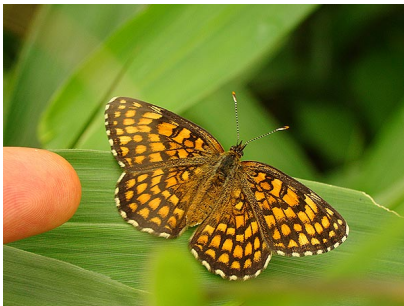


代表的な高山蝶「ミヤマモンキチョウ」
準絶滅危惧種に指定されている (環境省)

ならず、富士山には高山蝶が全く生息していません。また、高山で出会う天然記念物の雷鳥（ライチョウ）やハイマツ（低木）も生息していないそうです。もちろん、これには理由があって、富士山がいつ出来たのかということと大きく関係していました。

地球には、かつて氷河期という時代がありました。間氷期と氷河期が繰り返され、氷河期には年平均気温が、6~7℃低下したこともあるようです。最後の氷河期は今から約1万年前に終わったと言われています。実は、高山蝶の多くは、その頃の寒冷な気候に適応した蝶の末裔なのです。気温が上昇するのに伴い、多くの高山蝶は、北海道や標高の高い高山に分布域を変えていきました。一方、富士山は、氷河期が終わった今から1万年前に、活発な火山活動に入り、その噴火により、現在の新富士（3776m）ができたと言われています。つまり、高山蝶が分布域を変えていく時、今の富士山はなかったというわけ。なるほど・・・だから高山蝶は富士山にいないのか(^_^)

その「蝶」という言葉で、私たちの足下にある「甘利山」を調べてみると・・・その生態系の中で、何が起きているか・・・その要点を4つ、みなさんにお伝えします。



甘利山に生息しているはずの
寒地性「コヒョウモンモドキ」

1. 寒地性の蝶であり、県のレッドデータブックにおいて、絶滅危惧種に指定されていた「コヒョウモンモドキ」が、甘利山から姿を消したこと（2011 調査）
2. もともと西日本に生息していた暖地性の「ツマグロヒョウモン」が進出し、その生態的地位を奪いつつあること（ツマグロヒョウモンは甲府盆地でも普通に見られるようになった）
3. ツマグロヒョウモンの北上には、そう・・・「地球温暖化」が大きく関係している（ナガサキアゲハの北上が、以前話題に）
4. コヒョウモンモドキの餌となるクガイソウが激減していることが、直接の理由になっていること。そのクガイソウの減少は、

「シカによる食害」が大きな原因になっているということ。

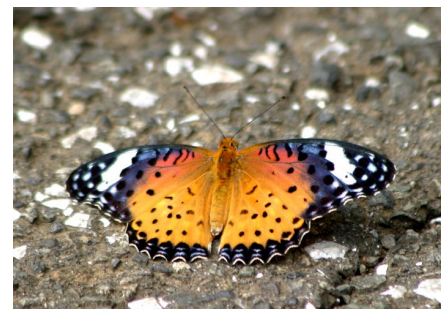
北原先生は「このままでは、これまでそれぞれの地域に生息していた固有種や希少種が絶滅してしまう」と警告しています。そして、このような現象は、日本だけでなく世界でも起きていて、「どこにいても似たような植物種と動物種しか見られない」いわゆる

画一化・均一化のグローバルゼーション

が加速していると強調されていました。生物多様性の真逆が進行中ということか・・・(^_^)

私たちの身近なところで、生態系の変化が急激に進んでいることを改めて知り、驚きました。葎高 SSH としても何かできないか懸案中です。実は、地元の甘利山倶楽部さんと夏休みに、シカの食害調査（植生調査）を一緒にやらないかというお話が出ています。既に10月には本校山岳部が防護柵の設置に活躍し、自然科学部も前向きに検討中。この問題に関心のある生徒と、クラスや部活動という枠を超えて、是非 SSH として一緒に活動できたら・・・と考えています。

本州に生息する高山蝶（9種類）リスト
タカネヒカゲ、ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、
ミヤマモンキチョウ、ミヤマシロチョウ、
オオイチモンジ、コヒオドシ、
クモマツマキチョウ、タカネキマダラセセリ



亜熱帯産で、かつては近畿以西に
生息していた「ツマグロヒョウモン」